

# 野田・九条通信

2005年8月15日  
NO. 2  
「野田・九条の会」事務局  
TEL 7122-0502

八月例会の報告

## 「終戦60周年記念講演会」の成功に向け総力を

八月例会は、第二土曜が「お盆」と重なったため、第一土曜の六日に行なわれました。

最初に「やさしい憲法の話から自民党憲法改正案要綱まで」と題して、大学講師の吉沢弘氏にお話しをいただきました。憲法学習を行ないました。

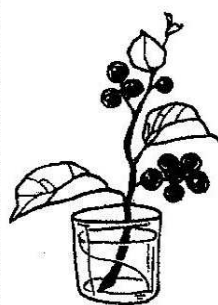
「友の会・九条の会」が仲間入り

八月例会には、「野田医療と健康友の会」の会員さんでつくる「九条の会」代表の野崎弘子さんが、はじめて参加をしてくれました。できたばかりの機関誌「麦わらぼうし」を配布し、活動内容を紹介してくれました。次に「講演会」当日と準備の役割分担について話しあいました。

当日の司会は、呼び掛け人の武智多恵子さん、「会」を代表しての挨拶を森本房子さんにお願ひすることになりました。受付や駐車場などの担当および諸準備は、事務局を中心に賛同者の方々に

もご協力をお願いし、総力を上げ取り組むことを決めました。依頼をされた方は、快く引き受けて下さるようお願いします。

意見広告チラシ  
各新聞に17日折込  
「講演会」を全市民に



## 平和の道標・憲法九条

勝田 武彦  
元 市選管委員長職務代理者

日本国憲法は、明治憲法を土台に出たもので、歴史的には多くの犠牲と廃虚の中から生まれたものである。押しつけられた内容ではない。日本がボツダム宣言を受けて戦争を終わらせ、極東軍事裁判で戦犯が裁かれ、全世界に国民総意で正義秩序としての永遠の平和を誓ったのである。

あれから60年、日本は経済的に豊かになり、戦前・戦中・戦後世代の戦争と敗戦後の混乱期を体で感じていた世代が少なくなり、困窮二世のジュニア層が多くなり、飽食と大量消費時代に生まれ育ち、平和は空気のようなものだと思われ、憲法は平和維持に必要の関わりも無いと考える人々が多くなったことは残念である。徴兵制・兵隊検査も知らない現代成年は幸せかも知れないが、迫り来る戦場への出動要請

知らせるための「意見広告チラシ」作成に取り組みできました。紙面について二、三ご意見を受けました。

承認をいただきました。お盆明けの17日に朝日、読売、毎日、東京の各新聞に折り込むことになりました。

が突然襲ってくる社会の流れが、知らず知らずやって来ている。

戦後60年日本は平和国家だと言われている。しかしこの60年間、世界を見ると戦乱、動乱が立て続けに起きている。古い順には朝鮮戦争・ベトナム戦争・湾岸戦争・アフガン戦争・イラク戦争とあるが、これらの戦争は日本領土の基地から弾薬・武器が運ばれ戦争を遂行してきた。表向きには平和国家であるが、間接的には戦闘行為を支えて、戦争に協力した形になる。憲法九条が存在しているが、拡大解釈で集団的自衛権として決めている。

若し憲法九条が改悪されれば、専守防衛でなく先制攻撃につながる可能性が出てくる。世界の平和とアジア地域の不安定化をもたらさないためにも、九条条項は守るべきである。

## 奮戦記

賛同者拡大

◎アピール賛同者の一人H・Iさんは、普段の付き合いで話しのできる仲間に訴え、これまでに21人もの賛同者を増やしています。

「九条が変えられたら日本がどうなるか分からないわよね」「戦争だけはやだもんね」などと、普段からイラク問題や平和について話のできる友人に、アピールへの賛同を気楽に訴え増やしたとのこと。

仕事が忙しくて充分に取り組めないが、何かあるたびに訴えて行きたいとHさんは語ります。

◎同じく賛同者の一人芝田みつ子さんは、自分とつながりのある人に訴えて、18人のアピール賛同者を増やしました。

その中の一人は、憲法が変えられようとしていることに危機感を持ち、平和行進にも参加し、家族全員が賛同者になってくれたそうです。

充分ではないが、自分なりにできるやり方で頑張りたいと話します。